



建物の土台と骨組みを計画する構造設計。その奥深さに興味を覚え松尾建設(株)に入社した大野智士さん。今は、希望した構造設計課とBIM設計課の両方に席を置く。BIMは次世代を担うツールとして、建築業界で注目されているソフトだ。課題もあるが、これを活用することで情報を集約し知恵や経験を蓄積できる。必ず会社の10年先にも役立つと話すと話す大野さん。今後の目標を伺った。

●この職業を選んだきっかけ

大学入学した当初は、設計の意匠部分に興味がありました。ただ、建築について深く学び始めると、自分はデータに基づいて考え、検証し問題点や方向性を見出す方が向いていると感じました。構造設計は幅広い分野です。たとえば、地盤調査から始まり、建物の柱、梁、床などの部材を決め、それを裏付ける構造計算や設計図の作成などをします。「なぜ、そうなるのか」根拠を探しながら理想的な答えを導き出していく。ひとつの仕事を着実にこなすことが得意な自分には、天職だと思っています。

●職場の魅力や責務

基準書や法律、知見などを考慮し、建築物を作り上げる作業は挑戦し甲斐があると思います。構造設計は建物の骨組み部分です。建物に必要な空間や構造的な耐力など、様々な条件をクリアしていく必要があります。これらを計画や工事の段階から関わられるのは、ゼネコンの醍醐味であり、構造家として大きな魅力です。だからこそ、デザイン性を崩すことなく、安心・安全な構造設計を届けたいと思います。

●仕事のこだわり、ポリシー

ここでは、あらゆる構造形式を経験できます。鉄骨造・鉄筋コンクリート造・木造・免震震などさまざまです。だからこそ、得意分野を作るのではなく、どんな形式にも対応できる幅広い知識を持ちたいと思います。

今はまだ経験していない構造形式でも、身近にいる同僚や先輩方が担当しています。いつ、どんな仕事が入っても取り組めるよう意識しています。そのために、携わったことのない形式については、指針等に通し自分なりの考えを準備し、ノウハウや注意点など機会があれば聞くようにしています。

担い手シリーズ 13

未来を支えるため BIMを活用し 新たな分野を切り拓く

大野 智士 入社5年目(一級建築士)
松尾建設 株式会社



●仕事上で印象的なエピソード

BIM設計に携わり環境は変わりました。BIMは、当社でも積極的に取り組んでいます。その中で、building SMART Japan が主催する「Build Live Japan 2018」のBIMコンペに参加し、2位に入賞しました。

大会は限られた時間内に、建物を計画する仮想コンペ。BIMの推進と普及を兼ねて、この大会に参加するため一年かけて準備しました。チームは年齢も性別もバラバラ、なおかつ協力会社も参加しての構成です。自分が中心になり、ひとつの目標に向かって進む組織力、モチベーションの維持や方針の軌道修正など、学びが多いコンペでした。チーム20人をとりまとめ、結果を得られたことは大きな自信です。

●今後の目標

大きな目標は構造設計一級建築士の取得です。これからBIMを扱うようになって「構造設計」を軸にキャリアアップしていきたいと思っています。働き方改革が社会的課題になっていますので、BIMを導入し活用することは、対外的にも大きなアピールになります。AIの話題もありますが、BIMを使用し判断していくのは人です。その場に合う知識や創意工夫が大事。だからこそ、経験を重ね、実用化が可能になるような基盤を作りたいと思います。



大野 智士 (おおの さとし)
佐賀県出身。芝浦工業大学大学院理工学部 建設工学専攻卒業。平成27年4月松尾建設(株)入社。

会社情報
840-8666 佐賀市多布施1-4-27
TEL:0952-25-4005/ FAX:0952-26-2470

<http://www.matsuo.gr.jp>